

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770105282		
法人名	株式会社 アップワード		
事業所名	グループホーム いちようの家 (2・3・4階 共通)		
所在地	大阪府堺市南区檜尾550番地		
自己評価作成日	平成26年8月25日	評価結果市町村受理日	平成26年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○可能な限り毎日散歩に出かけ適宜な運動になるように配慮しています。</p> <p>○入居者様の買い物等は個別に付き添い行っており日々の食材は職員とともに近隣の八百屋やスーパーに買い物に出かけています。また、各フロア毎に月に一度は外出する機会を設け夕食やティータイムを楽しんで頂いています。</p> <p>○食事は手作りで入居者様と一緒に家庭的な雰囲気が持続できるように心がけています。屋外に家庭菜園や花壇を作り野菜の収穫や花々の鑑賞を楽しんでいます。</p> <p>○入浴は曜日や回数に制限なく自宅に居た時と同じように毎日夕方から行っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームいちようの家」は、介護保険制度が始まって3年後の平成15年8月に医療法人銀杏会によって設立し平成18年現法人に引き継がれたものである。事業所名の由来はそれによる。</p> <p>当事業所の介護に対する想いは、経営理念に全てが込められている。「日々『今』を大切に笑って楽しく、家庭的なぬくもりのある、生活……」を実践している。利用者の一人は言う「昨日のことは忘れてるけど、毎日美味しいものを食べさせてもらってること、職員さんに、毎日優しくしてもらってることは忘れへん」。食事は、買い物から調理まで全てを利用者と共に行う。男女共である。男性も調理場につたって洗い物もする。職員の中には、調理師学校を出たオーナーシェフの経験者がいる。そして、職員に看護師もいて、医師・看護師のオンコール体制が整っている。グループホームの本来の姿を見た。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームな環境で地域とつながりながら暮らせる家として事業所理念を各フロアー、玄関に掲示しホーム案内パンフレットにも記載しています。職員会議等で周知徹底できるように理念を共有し日々の支援が行えるようにしています	「日々『今』を大切に笑って楽しく、家庭的なぬくもりある生活……」と事業所独自の理念を掲げ、各フロアーに掲示するとともに、日々唱和しながら共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の有志で地元の秋祭りには地車が施設前で停車し楽しませて下さっている。夏祭りを開催し近隣の住民の方も招き楽しんで頂いている。日々の散歩や買い物などで気軽に挨拶を交わせる程顔なじみになっています。	平素の散歩の中で地域の人々と挨拶を交わすほか、地域の小学校や自治会へ出向いていって高齢者介護の寸劇をしたり、事業所の行事にも近隣の方々に参加して貰うなど日常的に双方向で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	南区のGH全体で認知症啓発活動を行い地域の小学校や老人会、自治会へ出向き認知症の理解を深めて頂ける様に寸劇を行い講座を開いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況や行事、活動、入居者様の生活状況の報告を行い多様な意見交換を行っています。ご意見等は即実行できるように努めています。	利用者、利用者家族、民生委員、自治会長、地域包括、事業所職員等が参加して、隔月に開催しサービスの取り組み内容や状況について報告するとともに意見や提案を受け、それらをサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南区GH連絡会に地域包括支援センター職員に参加して頂き情報交換の場を設けています。また介護保険係や地域福祉課にも出向き相談や情報を得る機会を設けています。定期的に生活支援課からの訪問もあり協力体制を築けるよう努めています。	利用者の暮らしぶりやケアサービスの取り組みなど、事あるごとに区役場窓口へ出向いたり、電話をかけるなどして、相談しながら連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	積極的に外部研修に参加し施設に持ち帰り内部研修を行い職員間で周知理解を深め身体拘束、抑制をしないケアを実践しています。	事業所の管理者および職員は、身体拘束によって利用者にも与える身体的、精神的苦痛を十分理解し、ユニット毎の出入り口や玄関は施錠せず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に外部研修に参加し施設に持ち帰り内部研修を行い職員間で周知理解を深め虐待防止に努めています。また、管理者は常日頃から職員とのコミュニケーションを図り相談しやすい環境を作り状況を把握できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し施設に持ち帰り内部研修を行い理解を深めています。また、司法書士を講師として招き内部での研修会を行い知識の向上に努め実践で活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約は家族様と複数回面談し理解が得られるように説明を行い質問や不明な点にも納得が得られるまで分かりやすくお応えするよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を各フロア玄関に設置し申し出しやすいように配慮しています。また、家族様の面会時にはお声を掛けさせて頂き御意見、ご要望を尋ね話しやすい環境に配慮しお応えできるように努めています。	運営推進会議の他に、利用者には平素の会話の中から、家族等とは来訪時に、意見や要望を聞き出すようにしている。各フロア玄関口に意見箱も設置し、出た意見を運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体会議を行い職員間の意見交換の場を設けています。また個別面談を行い意見や相談ができる関係作りに努めています。	月に一回、全体会議やフロア会議を行い、シフトや接遇、利用者の対応に関する事など、運営に関する職員の意見を聞く機会が設けられている。個別面談も年に3回行い、職員の声を聞き出す努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の勤務状況、職員個々の実績や努力を把握し働きやすい職場環境が整備できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加してもらい施設に持ち帰り内部研修を行い職員全体で知識や技術の向上に繋がる様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市全体のGH連絡会への参加や南区のGH連絡会、連盟での啓発活動などの取り組みも含め積極的に交流が図れる機会を設けて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境が変わる事による心身の負担を最低限に抑えられるように自宅等に出向き馴染みの関係を構築し安心してご入居して頂けるように配慮し個別のケアが行える様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回見学から相談しやすい雰囲気作りを心がけ家族様の思いや不安、苦悩を受け止める努力をしご入居までに不安や疑問など、その都度サービスの内容やケア方針の確認を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの生活上の希望やケアの方向性を話し合い状況に応じて必要なサービスの情報提供を行い他のサービスや事業所をご紹介させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人のペースで自分らしく過ごせるようゆっくり時間をかけて関わりが持てるように支援しています。入居者様が我が家で暮らしているのと同じように役割を持って生活が送れ和やかに過ごせる様に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間の制限は設けておらずご来訪して頂きやすい雰囲気作りを心がけご本人の日々の様子や希望などを共有できるように努めています。行事にも家族様に参加して頂き入居者様と楽しいひと時を過ごして頂ける様に配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外の面会者にも来訪しやすい雰囲気作りを心がけ楽しく過ごせるように配慮しています。手作りの年賀状や暑中見舞いなどもお送りできるお手伝いも行っています。	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、馴染みの人や場所への訪問を家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間人間関係も様々ですが日々助け合いながら生活できている場面が多々見られます。職員が仲介役として良好な人間関係が築けるよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も入院先へお見舞いに行ったりその後の様子をお伺いしフォローや相談支援に努めています。ホーム近隣の家族様などは行事の際、遊びに来て下さるなど交流を続けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人の希望や思いを日々の会話などから聞いたり、読み取り把握するように努めています。困難な場合はご本人の様子や表情、言葉を見逃さず家族様と相談し考え取り組んでいます。	利用者本人がどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中から、食事の希望や趣味等を聞き出し、出来るだけ意向に添った支援をするようにしている。「死ぬまでに一度高野山へお参りたい」に添えて皆でお参りしたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からご本人、ご家族、各サービス事業所から情報収集を行いフェースシートを作成し職員間での情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケア記録から状態の把握に努め定期的にケアカンファレンスを行い希望や要望に沿った暮らしが行えているか確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にご本人、家族様も同席して頂きモニタリング、ケアカンファレンスを行い、職員、かかりつけ医など各関係者と話し合い計画に反映するよう努めています。	介護計画の期間は3ヶ月とし、アセスメントとモニタリングを行っている。変化が起きた時には本人や家族等も同席の上話し合い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し日々の様子やケアの実践等記録し職員間での共有を図り3ヶ月毎の介護計画の見直しを行っています。特記事項や連絡事項、伝達事項等を申し送り徹底して周知しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に個別のサービスが行える様に管理者、計画作成担当者、フロア職員とのチームワークを構築し柔軟な取り組みが行える様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設のデイサービスに遊びに行ったり、近隣のスーパー、八百屋、パン屋さんを日常的に利用し毎日の散歩には近くの田畑のから西原公園までをコースにしています。地域の小学校から福祉体験学習の場を受け入れ交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に往診で健康管理を行っています。必要に応じてご本人、ご家族が希望する医療機関の受診や緊急時の入院等の支援を行っています。	利用者本人や家族等が希望するかかりつけ医になっている。基本的には家族等が同行受診するようになっているが、不可能なときにはフロアリーダーが同行するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な往診で医療連携体制を図り医師、看護師との連携を取っています。また、職員として看護師を配置し異常の早期発見に繋げていけるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院と連携を図り面会も重ね入居者が安心して療養できるように努めています。往診医と入院先の主治医と相談し退院後のホームでの生活や健康管理について検討し出来るだけ早期に退院できるように支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの取り組みは行っています。早期から往診医の立会いのもとご本人、家族様とホームとして出来る事を説明し話し合いを重ね、方針に沿ってご要望にお応え出来るようにホーム全体でチームケアの取り組みを行っています。	重度化した場合の対応のあり方について、事業所の指針を作成、対応しうる最大のケアについての説明をし都度同意書を交わし、その方針を共有している。 医師看護師ともオンコール体制をとりながら家族等の納得の出来る支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常時、職員が閲覧できるようにテキストやマニュアルを備えています。内部研修で講習を行い実践的な訓練や勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防の立会いにて避難訓練を実施しています。避難場所として近隣の駐車場をお借りするなど協力体制を仰いでいます。火災、災害に応じ昼夜を問わずマニュアルや手順書を作成しホーム全体で周知できるように努めています。	災害時における避難訓練や消防訓練を利用者と共に年に2回行っている。災害に備えた備蓄品も整えられている。また、昼夜に対応した防災マニュアルも防災対策委員会で作成している。しかし、夜間を想定して地域の方々と共に行う避難協力体制は少し不十分である。	避難訓練を共にし、駐車場まで誘導した後の利用者の見守りをお願いするなど、役割分担を明確にすることで、地域との連携体制を整えることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上委員会を設置し常に職員の意識が薄れないように内部研修での勉強会や管理者との面談を行い教育指導に努めています。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないようサービス向上委員会を設け徹底研修、配慮のある言葉掛けや介助がされている。個人ファイルもスタッフルームの書棚に施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりお話しし、ご本人の思いや要望を確認し出来るだけ意向に沿った支援ができるように努めています。意思表示が困難な方へは表情や言動、行動を見逃さず理解できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう入居者様のペースを優先し柔軟に対応できるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性、男性問わず買物に出かけ服を選んで購入されたりその日に着る物を職員と選んだりとそれぞれに気を配る様に配慮しています。また、整容では女性は美容室、男性は理容室と分けて利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ入居者様のご要望にお応え出来る献立を工夫し個々に食べやすい調理の内容の工夫も行い楽しんで頂ける様に努めています。職員も一緒に準備から配膳、テーブルを囲み食事をし、後片付けを行う光景は家族そのものです。	毎日の食事が楽しみなものになるように、ある程度出来上がった献立をプロの調理師が利用者の希望を聞きながらアレンジしている。調理、盛り付け、食事、後片づけも利用者と共に家庭的な雰囲気の中で行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に偏りがない様注意し食事量や水分摂取量の記録をつけ必要量が確保できているかチェックし個々の状態や様子を観ながら支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が付き添い口腔ケアを行っています。また、週一回歯科往診に来てもらい口腔衛生面を充実しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し定期的にトイレのお誘いや付添いを行うことで失敗を減らしオムツの使用を減らす事が出来ています。トイレで排泄して頂ける様に工夫し自立支援を行っています。	全職員は、一人ひとりの排泄パターンや習慣、サインを把握している。あからさまな誘導ではなく、さりげなく声掛けをして排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し水分補給の徹底と食物繊維を多く含む食物を摂取して頂くように努めています。また、毎日散歩に出かけ適度な運動に繋がり便秘の改善に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お家に居ると同じように基本的に毎日夕方から入浴して頂けるようにご用意しています。個々の体調や気分によっては入浴されない方もおられますがその時に応じて楽しんで頂ける様に配慮しています。	風呂は午後4時から6時まで毎日沸かしている。何時でも入浴は出来るが、不公平の無いように利用者に希望を聞きながら順番は変えるようにしている。入浴拒否の利用者には、医者に成り代わってお願いするなど無理強いせず、工夫をこらした支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の取り決めは特になく自由に過ごして頂ける様に配慮しています。個々のペースに合わせて休息したり入眠前には必ず挨拶を交わし安眠できるように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬説明書を綴り職員が周知し内容を把握できるように努めています。服薬の変更等があれば伝達事項、申し送りを徹底して行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業などそれぞれに役割を持って職員と一緒にいき、やりがい、生きがいを感じて頂ける様に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩以外に外出や外食、買い物など皆様と一緒に出来る機会を多く持ち楽しんで頂いています。また、家族様との外出も自由に出かけて頂きご家族との絆も深めて頂けるように心がけています。	天気の良い日には、ほぼ毎日利用者の体調に合わせて散歩コースを3種類に分けて散歩をしている。また、電車や徒歩で家族の協力を得ながら、通天閣や神戸の花鳥園等へ遠出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大きさを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族様に管理をして頂いています。ホームでは小口をお預かりし管理していますが外出の際には職員が見守りを行い入居者様に持参して頂き支払い等も行って頂いています。ご希望により少額ですが所持されてる方もおられます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば事務所の電話を使用して頂いています。但し、緊急時以外は家族様、知人様へ配慮し夜間の使用はご遠慮頂いています。家族様やご友人などへのお手紙等は近隣のポストへ投函しに行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビングはソファやTVを置きゆっくりとくつろげるスペースを確保しリビングには大きな窓があり明るい。ブラインドを設置し光の調整ができるようにしています。壁には入居者様が季節ごとに壁画を作成して飾り季節感が感じられるように配慮しています。トイレや浴室は分かりやすく表示をつけています。	ゆったりしたリビングルームでは利用者それぞれがテレビを見たり、新聞や雑誌を読んだり、仲間同士が話し合ったりしてくつろいでいる。壁には利用者や職員の作った切り絵や貼り絵等作品の展示があり、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごされる時間の方が多いためテーブルとは別にソファや他にも椅子などを置き個々に過ごせる様に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し使い慣れた自宅の家具や小物を持参して頂き居心地良く過ごせる様にして頂いています。	それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真、本人の趣味の作品・絵画や書道などが持ち込まれ、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを念頭に置き家事一般にそれぞれ出来る事から行なって頂き自立した生活が行えるよう支援しています。また、廊下には手すりの設置や各場所に目印や表示を掲げ分かりやすい様に配慮しています。		